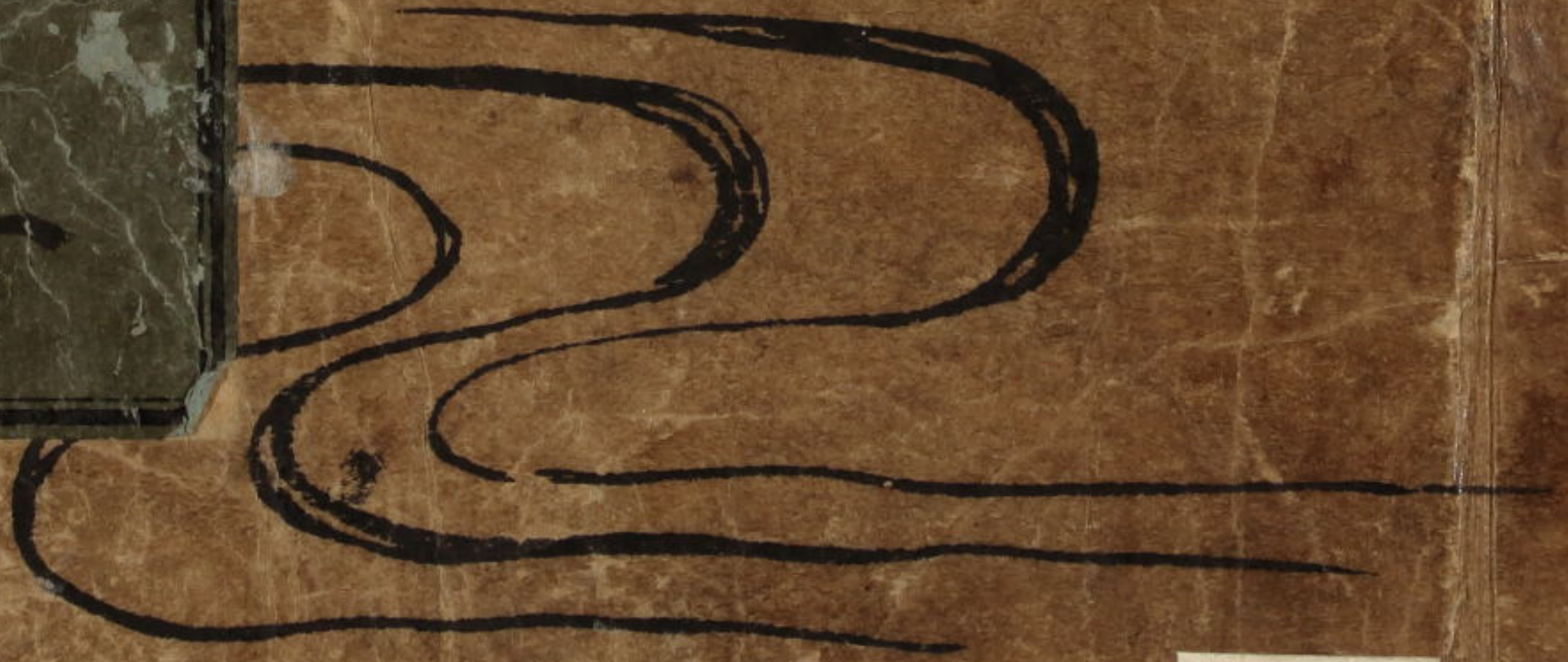




墨田川梅柳新書

京



13
3097
1



13
3097
-7-

門 13
號 3097
卷 1



得 雙

海印所書卷之一

初

名
一
亦

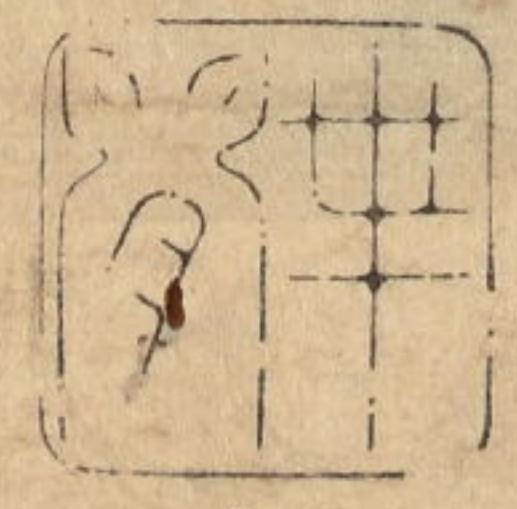


天仁三丙寅年

孟夏朔為

馬琴老兄之囑

半閒處士



墨田川梅柳新書と刊る例

吉田少将の事極く詳みど。但謳秘歛といふの母野上の花子さう

へれ致かつた。彼少将の夏と載り。亦松稚梅稚の。世のいささぐわ

りふり。梅花盡藏の説へ且くわく或は梅稚ハ

人皇六十五代 花山院の寛和二年丙戌三月十五日没と云ふ説或

八十四代 順徳帝の承久二年庚辰三月十五日野人の為小横死と云

しやそのゆかばらかりとも。白楊青苔の春秋と経く古墳當

るふ堪たり。夫前小詳みさう。後小細まらりてゆく。草紙物語

のこの書も又その類の。婦ののふそととささ。只善

悪と懲り。正と奉邪と退るのの違ふ。墨田河原小筆

そと。木母寺の柳の。あぐさるんとおもゆ。牛嶋小角組



しつり。渡守の烏帽子とさしつゝへへ。御の名も今ふへ異なり。平井牛嶋
 関屋須田村柳嶋あり。あきともむい未まるとおぼへ。葛飾へ和名鈔園郡
 の部下總の條下ふ加止志加とあり。さればこそ伊勢物語のむじの園とも
 あらう園との中ふと大きき河なり。それともみど川といふと書され。今利根
 川と西國の封疆と定とく。葛飾へ武藏不属とも。亦夫木集瓜元とど。
 中ぶ移すと川小橋とくけとくもあり。彼集小康元元年 後深州帝年号
 將軍宗尊親王
 鹿嶋の社小諸と母。すこ川のころと見え。彼とく今いふとく
 われべとありとく。先俊朝臣
 とみど川むういへ。今もその水もあうとく。のむ世にたり
 今の橋場といふ処。その餘波かきんうと。あき人のむり。亦古本更科日記に

りよきの園といふ所のさかひのむけ。あき川とぞりみ。在五中將のいご
 とんんと証なり。中將の集小の川とあり。あき世にたり。さ
 のはらみははとせし。夜ひともかぐらひのあきとて。あきとあり。さ
 川は東かき。あきとく。川と稱し。一證とて。今も彼渡の村。須田といふ。近あり。
 これも元の阿須田さる。上略し。須田ともいふ。又須田をいふと。証するを。
 都人のいふ川とく。あきやめん。この友人。蛾術齋の説。あは考おけ。あきとあり。さ
 記りけ。あきとく。漏し。今この草紙へ。東鑑盛衰記承久記。あきとあり。さ
 言の葉とく。あきとく。あきとあり。さ。あきとあり。さ。あきとあり。さ。あきとあり。さ
 雉子。受地村の雲雀もあきとあり。梅柳新書と名づける。あきとあり。さ
 りよ宗とく。あきとあり。さ。

文化丙寅の三月十五日

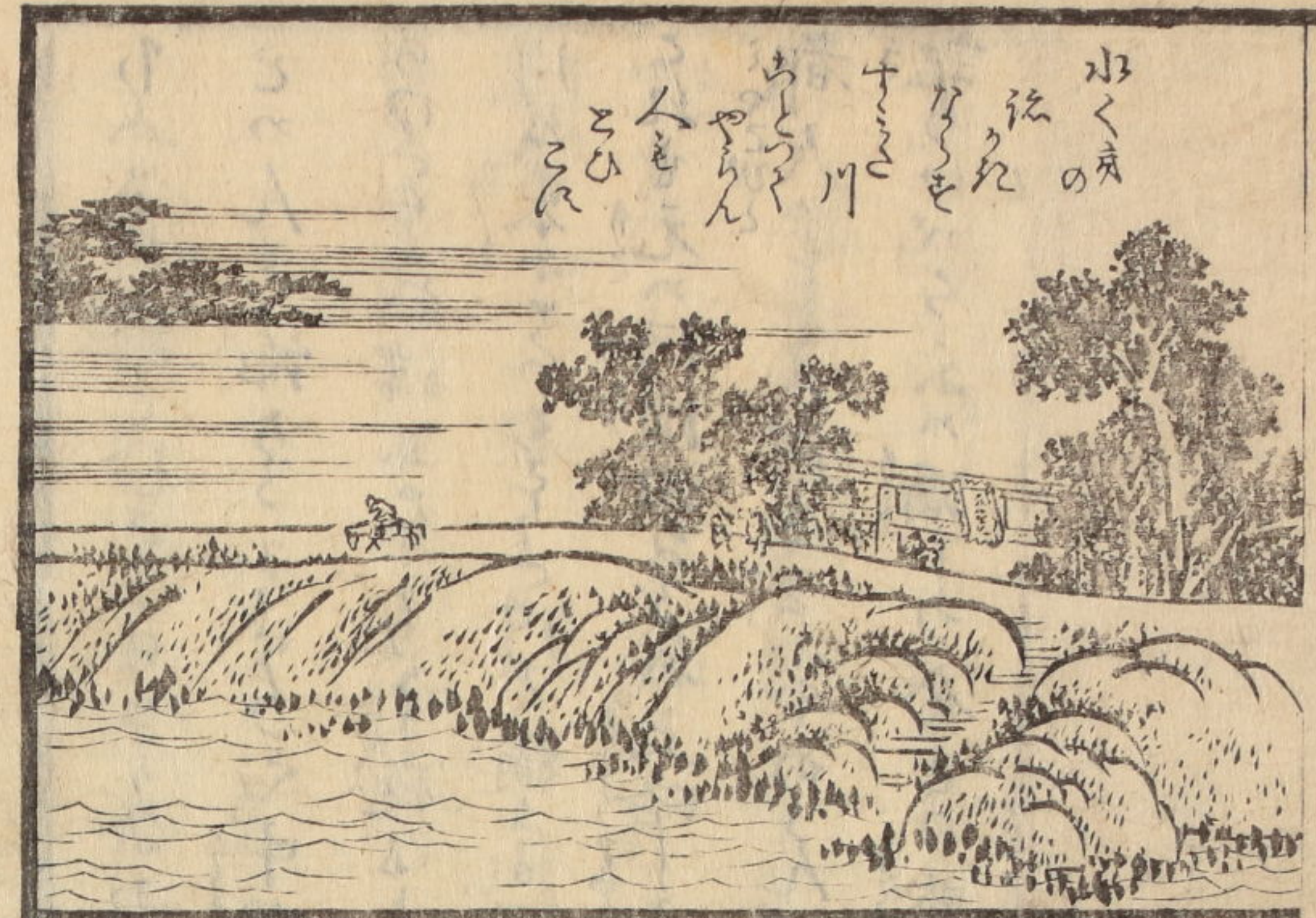
著作堂識



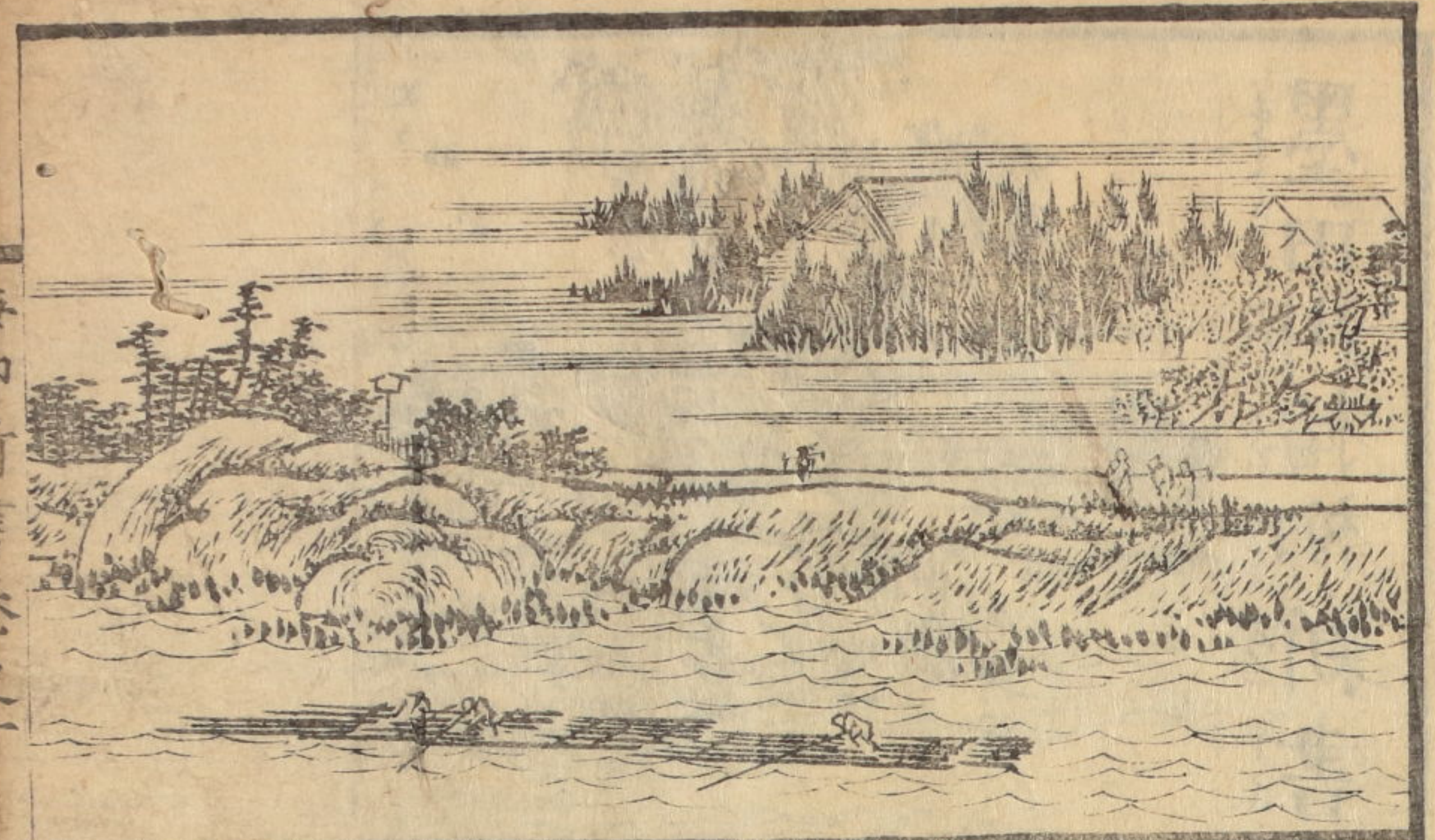
墨田川梅柳新書總目錄

全本六冊

梅柳新書卷之一



- 一 卜部惟通嵯峨野小机を訪ふ
- 二 吉田女將野上驛了美よ遇ふ
- 三 光政避雨く赤繩了繫がる
- 四 斑女花了寄せて黄金を賜ふ
- 五 龜鞠俳優く賊僧を欺く
- 六 盛景影乃江了亂時を



- 七 殺せ松稚丸潜了白川
- 八 獵人忍宗太酔く西洞院を鬧せ
- 九 金鷄凶を告く惟房を陥る
- 十 天狗石を飛く松稚丸救ふ
- 十一 春雨厚原野小山客と戦ふ
- 十二 光政平尾御了妻子を



昭和九年七月二十四日



夏川ふらふらと妹乃
 ちりちりとつむつ先り
 せぬぬし床

野上花子

墨田川梅柳新書總目錄畢

通計

八十六條



あけはら
 うけゆく
 すみ川
 ぬす
 袖

- 殺ころ以い
- 澤石洲の悪棍怒おこるら少年せうねんを
- 鞭むちつ
- 墨田川の津人憐あはれむむ狂女きやうにょ以い
- 渡わたり
- 因いんを説果しやうを示しむ揚柳やうりゆう
- 塚つか
- 奸けんを鋤す寛かんを雪ゆきむ大團おほだま圓ま



梅うめ 稚こ 丸まる

有知奈毗久

波流能夜

奈宜等

和家

夜度

能

鳥

梅能波奈等遠

伊可爾可和家武



山田三郎
光政

松井源五
純則



五月十一日

御酒 吾 雨 醉 里 家



赤塚軍介

燒刀 加之 打放 夫 禱 之

松 稚 丸



宇家
良我
波奈
乃
登吉奈
伎母能乎



忍宗太

和我世故乎安村可母伊波武
牟射志野乃



栗津六郎

勝久

月影とてあつみ海を
そよみの秋うらふもこひ一夫

棕橋亀鞠



墨田川梅柳新書卷之一

東都

曲亭主人著



一 卜部惟通嵯峨野小孤を訪ふ

ひう後鳥羽土御門順徳院二代の天子小仕をり吉田少将惟房
といふ人のりりその先心見足尼命よりきく雷大臣の後胤卜部吉田家
の慶流よりといふも故のりく家世久く衰へて棄てりつふ惟房乃
卜部の惟道といひ人のり安元治承の間平家政と執りつ時りつ
所縁ありて左馬頭行盛清盛の子の家小扶持せり。とてふつ神
世の中不亂と頼朝の豆相小起り。義仲の北越ふ生東軍百万威勢
攻上る平家防禦小策あり。安徳帝を衛なり。氏族親族より遠
浴に落。摂州八部郡須磨の浦小假の皇居とす。且く

英氣を避くばり。惟通も行盛に従ひ。須磨の内裏に居り。其の
 三年の春支つ。百遍千遍の合戦。源氏動も勝れ。其の
 朝日の昇る。平家の陣へ。有明の月。其の
 投く。落んと。俄頃。小野の樓。紅と。先帝。安徳女院。健徳と。兼せ。其の
 讃岐の八嶋。引退き。又。足と。得。長門の赤間。小舟
 籠。攻。高麗唐土の果。其の
 漕。源氏の兵。船。八方。一騎。漏。攻。平家の
 勢。宗徒の大將。或。討死。或。生物。今。其の
 行盛。惟道。私語。足下。予。恩顧。家。其の
 般。立去。誠心。後。其の
 柳。年。小櫻。初花。二人。女房。住。秋七月。

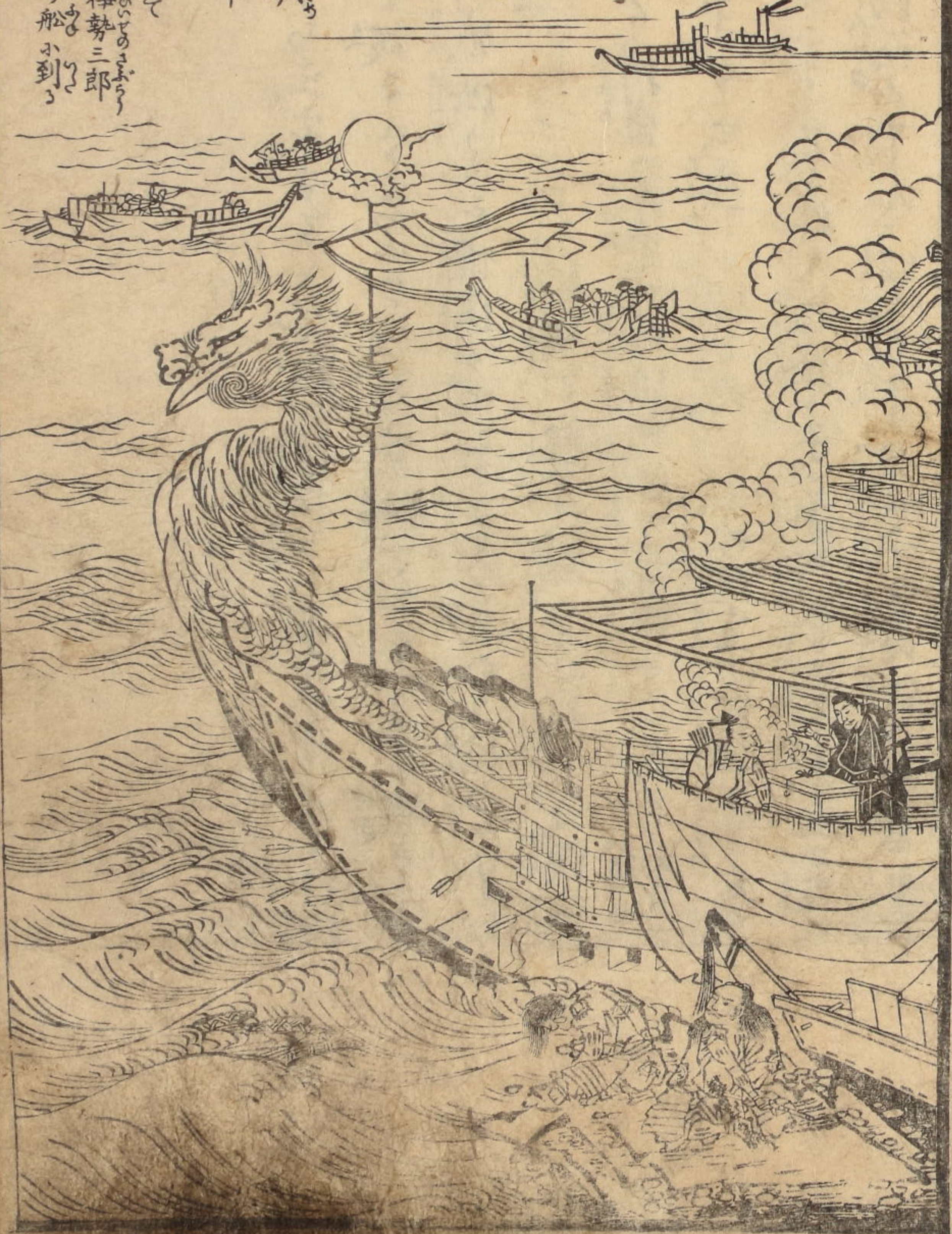
と。梅。男子。春。初花。有。臨月。其の
 処。五年。春。足下。元。武藝。富。其の
 り。易。直。浴。其の
 紀。念。備。前。家。次。其の
 自。他。平。等。即。身。成。佛。と。鑄。入。一。振。と。背。梅。と。松。と。鑄。其の
 鏡。一。面。其の
 安。其の
 舊。船。其の
 行。盛。其の
 前。左。少。將。有。盛。其の
 當。其の
 幸。不。切。其の
 其の
 二。人。其の
 討。死。其の
 先。帝。其の

北條九代記
 備前
 園の住
 三郎家次
 仰せ
 院の
 太刀
 久記
 家正
 打

救ひかゝらざりしや。つと身と起し秋の野ふらり布木の葉のぞく漕
 みへむらむらと。此彼と繋りうら先帝の御船不夜のそへんべつ今
 二位の禪尼君が時抱きまかりせく。御剣と腰不帶。千尋の底不沈
 めひねく。典侍以下の女房達船の艚舳不卧まりび。聲と揚り叫悲
 りへ。惟通も今さう不驚と。足も癱麻うかり不おほえく。御船ふらり
 唐櫃不尻とく。内侍所の御箱も狼藉ませと宣へ。惟通大不駭に怕と潮と沃け
 て身不清し。件唐櫃を負なり。うらうら源家の侍伊勢二郎
 義盛が船不到とれい吉田の庶流不部惟通とよりめく。平家重恩の人
 少のねべ。源氏不對し。恨もは。只假初の所縁ありて。前左典廐行盛不
 伴とく。今先帝の御船不まりあひく。くも。神鏡の御鏡と

守護く。承り。その。大將軍不し。とせり。義盛は。時と移さど。
 惟通と將く大將の船不まりし。義経斜まら。うら。びおぼく。坪の
 唐櫃と受ら。惟通を厚く待ら。時不文治元年春三月廿音。
 平家の氏族悉く滅亡せ。神璽内侍所へ故き浴へ。入をせしと。
 宝剣不海不沈。く。惟通守護を。内侍所も
 後白河院。この音叮嚀不仰知され。一処縣命の地とも宛
 官爵をも制度。惟通さ。承を。と
 も。朝恩不浴。衰る家と與さん。歡がる。ふの。と
 の。惟通苟も人の禍不由く。子の福を謀らふ。の。且近曾壇清
 り討死せ。平行盛不妾服の見二人の。彼人浴と。小橋と

文治元年
 三月廿五日
 壇浦水戦
 平家敗軍
 先帝入水
 ト部惟通
 内侍所藏
 唐櫃と
 守護と
 源家の侍伊勢三郎
 義盛が船小到了



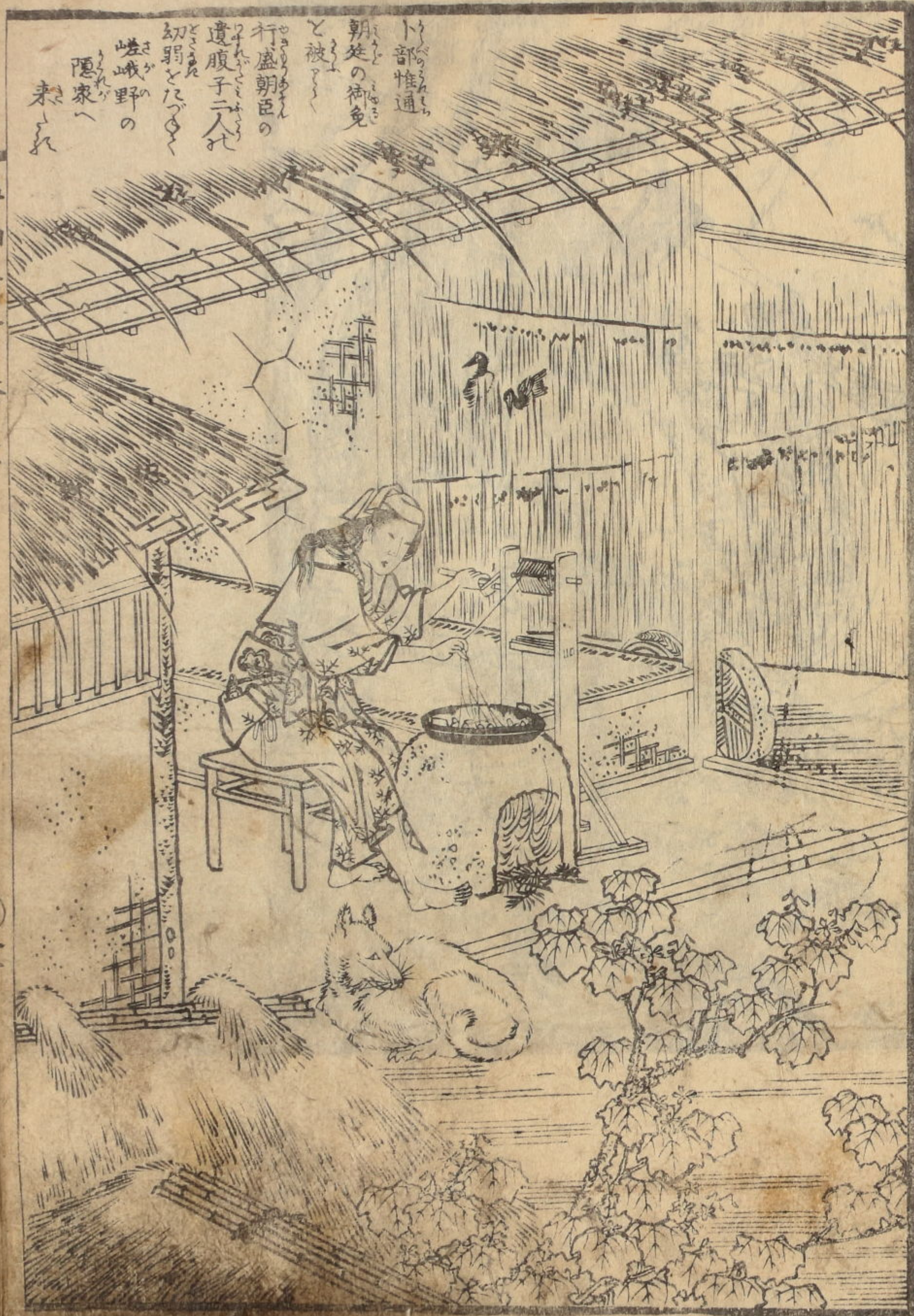
本末家三巻之三

女房の既小男子出せし初花といふ女房の有身ありり。人の
 家小潜せしむけりはとすれ。今へその見おめく五歳なり。この
 度の勸賞小彼二人の稚児を賜ふ。其後方と索せし。唯通が子と養ひ
 成長のち出家せし。父祖の後世成り吊りせし。これ行盛が年未
 恩恵と報さんとせし。このよ許せし。願ふ。法皇聞
 食て御感湧く。唯通が子と義あり信めし。行盛が子と
 と助得とせし。縁由と鎌倉へ仰つる。頼朝卿謹く。其
 うけり。行盛の卒家の嫡流朝敵の首領なり。その子幼少とも助かくべし。
 小のくも。天下小信と失り。院宣と固辞せし。んやうは。唯通
 が望ふ。又初花とやんが眼あり。見女子あり。彼が隨意養育ん。勿論と。

男子あり。これ又あり。ふお。仰合らる。この如く仰合らる。この
 と回答せし。その時當今。幼少あり。天下の大小と。院
 院。より制度より。法皇や。仰せし。唯通へ忽地。足
 足り。行盛の遺言と公めし。嵯峨野の奥小素の。小椽
 の女房と訪ふ。鎌倉より捜せし。疑ひく。左右あり。これ
 いざり。唯通赤心と。事審小告。わじの老女や。涙ぐ。こ
 方。抑行盛朝臣西海小漂泊。音耗。小椽の局。且暮憂。沈。病著。首
 の。遂去去年の神皇月黄泉の客と。老黨と。マ。心。世
 常。冊。世一人の老黨と。マ。心。世。推君と捨。地。逃去。里。住。

思と喜あつるものゆゑ。聊の縁ゆゑなりて。年来のむかへせられ。稚君の夏
 のまらふ痛しく。まは家小養育と。一枕の飯と。進むるもの。を朝廷
 より御免を喜あつるひ。世はひらく。生育らん。まは幸ふこと。稚君の地を
 らや喃と。ゆゑらふ。おいて應て破る籬芭のわらう。年紀五つ。なる童
 引捨る菅蒲と挿頭つ走まら。母つれ時ふ。日中の類ふ。うらう
 縹角のつら梳じ。もえんと。垢つたる。単衣も針目わらう。膚と裏じふ
 堪ざれ。らんえ。行盛の遺腹子と。ちふ。惟通漫る落涙。さくわは。おはぬ
 志をうらこび。折ふ。携る物を。初花のまら。又初花の女房
 と訪んと。まわつ。を。老女と。初花のまら。おはぬ。おはぬ。おはぬ。
 彼婦人の仁和寺の片邊ふ。住む。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。
 慰わりのひ。産ゆ。ひら。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。

親族。壇浦と。やん。滅亡。行盛朝臣と討死。ひねと。おはぬ。おはぬ。おはぬ。
 つく。叫ぶ。悲。終。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。
 左も右も。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。
 廿日。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。
 あく。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。
 あく。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。
 ところ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。
 られ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。
 物。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。
 け。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。おはぬ。





本木宗言老之一

仁和寺のやうな小劫な。里人の縁由と告ぐ。初花の...
尋る小。彼老女が...
これと云ふ緩す不索ね...
近江國志賀郡...
彼処小家...
愛甲のひね。惟通元来一子あり。柳王と...
養和元年行盛小後...
叡山月林寺の仲圓阿闍梨...
僅三歳あり...
成長の後吉田少将惟房と...
二人小義と結

く兄弟に。行稚へ年も劣らね...
わづれづれと...
惟通と稱讚...
是小當世の義士...
親小も

二 吉田少将野上宿小美小遇小

光陰へ流る水もも委...
行稚や長立ふれど...
惟通と云ふ...
折...
惟通の教訓...
且身の慎あ...
十五日惟通へ行稚...
備前家次が...
仲圓阿闍梨の徒...

十四歳さむらいの期き不達たつたらんりておされ。その豫よく官かみのつえをりてついでにほらるる。
 むん。又また子こ柳やなぎ王わうカか少すく別べつふ日ひとトと元げん服ふくを。吉田よしかた惟房ただふさと名な告つせり。
 ちりふららる。後鳥羽ごとりの帝みかど。口くち官かみ武藝ぶげいと好このむ。鎌倉かまくら小こ仰おほせを。
 ちり武ぶ士し十じゅう人と。北きた面めん西せい面めん小こ召めいり。惟房ただふさも弓馬きうば劍けん法ほうを嗜このむ。その業わざ既すで不おぼ熟じやく。
 せりと聞き召めいさん。父ちち惟通ただとほの仕官しつかんわたりて。その子こへいを青雲せいうんの志こころあつ
 らん。彼かののを進ませり。叮嚀ていねい小こ仰おほせ下くだされ。惟通ただとほわると推辭いひこもらん。
 いもわつじ。さぶまも。浴ゆふふた。聴きく惟房ただふさと藏人くらひんふりされ。家いへ
 北白川きたしろがわのわたりわり。賜たまりね。元来もとより恰さ恰さわ。君きみのいおぼえもつと愛あへり。
 家いへと與よさんさんのへ。あまごの子こあつて。父ちちへあつて。あまあま不おぼ盈あふむ。虧かる
 か。いゆく。その父ちち老おいの坂さかを登のぼりも果はど。建久けんきう七年しちねんの秋あきのち。惟通ただとほ假かり初はつめの
 病やま著あふ外ほかより。鍼灸しんきう藥やく餅もちも驗ありて。終つひ小こ身みまらり。惟房ただふさつと悲かなむ。

送葬そうさうのて。執と行ぎやうひ。忌いむとらりて。後奉公ごほうこう舊ふるのて。し。由よし。
 とり。官位くわんゐ年ねん不おぼ昇あ進しん。い。ま。五ご六りくの齡とよひも起おこる。四位しゐ左さ少すく将しやうふまされ
 る。幸さい福ふくの世よも又また稀まれに。今いまも。痛家いたけ少すく勝まさり。世よの人のあひとせ厚あつ
 く。秀ひでく。い。ま。り。じ。と。ま。か。建仁けんにん二年にねん壬戌にせの春はる。少将すくしやう惟房ただふさ陸奥むつの國くに司し
 小任こにんび。と。彼國かのくにへ赴ゆらん。家いへ隸れいふ。粟津あしづ六部ろくぶ勝久かたひさ松井まつい源五げんご純則じゆんそく以下いげの
 老黨らうたう君きみ黨たう。前驅ぜんきう徒た。一ひと。族むららね。これ。舊臣きうしんの子孫こそんの。彼此たがひより。まらり
 集會しゆゑするもの。これより。先建久九年せんけんきうくねん三月さんげつ二日にち。後鳥羽ごとりの院いん隱居いんこを。り。ひ。位ゐ
 を一の皇子このひこ為な仁王にわう。讓ゆづり。土御門つちのみかど院いんこれ。と。え。と。天下てんかの政まつりごと。後白河ごしろがわ。三月さんげつ十二日じふににち。明あきら
 の舊ふるを。追おひ。院いん。より。制度しどを。せ。さ。の。ひ。今度こんど惟房ただふさと陸奥むつの國くに司し
 任にんせ。り。院いんの。い。と。さ。さ。り。惟房ただふさへ。浴ゆと。さ。り。り。日ひと
 つふ。美濃みの國くに野上ののがみ。長ちやうが家いへ小宿せきり。ま。の。長ちやうが女児むすめふ花はな子こと。つ。白柏しろはく子こ入い。



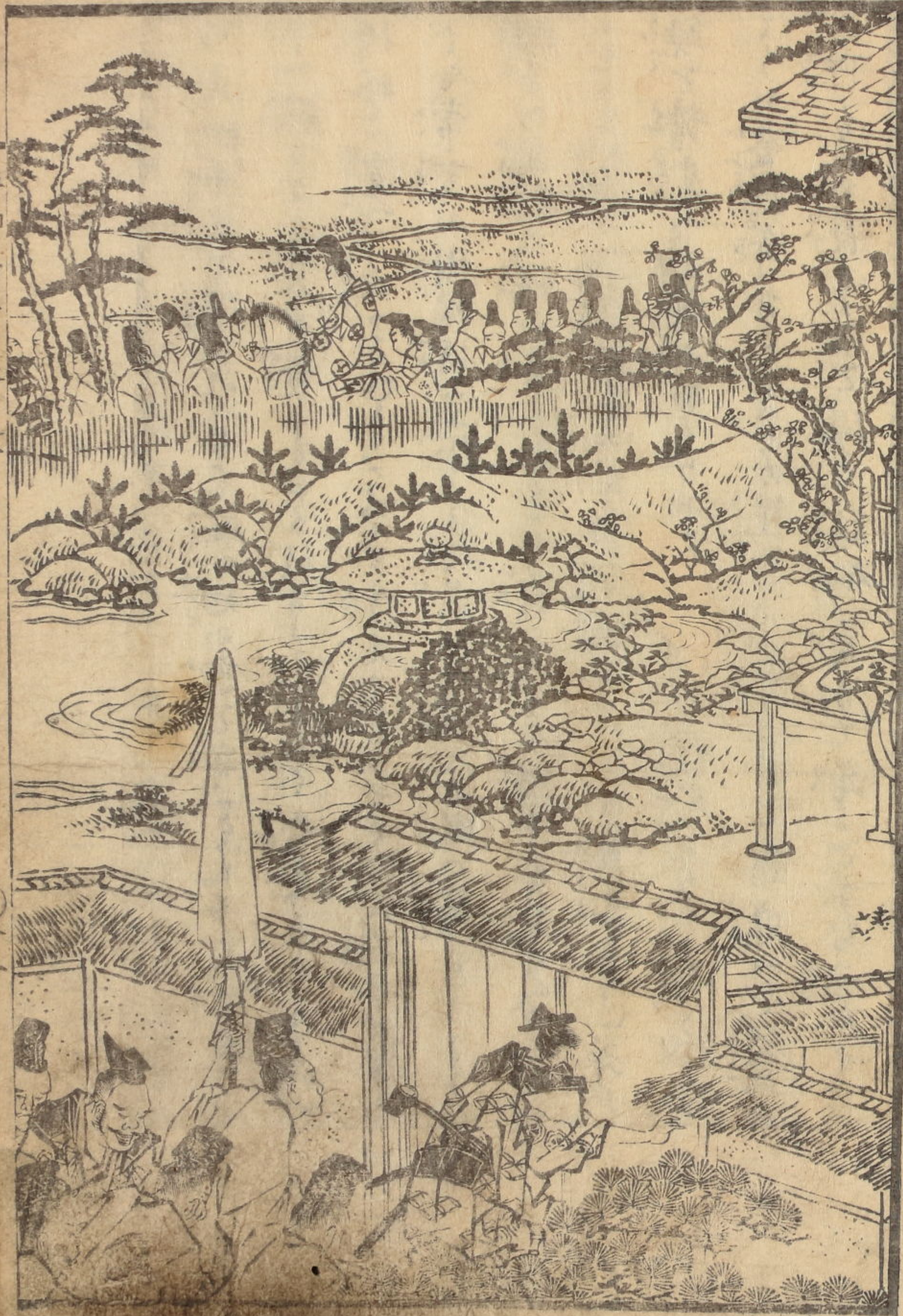
その名高く洛山と云えり。漢山と云へば趙飛燕（和の）の洛の静
他田の侍従の勝りも。更ふ劣るべしと云へど。青春（既）は廿二歳（い）と云ふ。夫と
定めその姿も艶麗（ま）れ。心もよく淫（ら）むと云へど。かの活業と云ふ女子
小。顔もよく人よ賞（う）へり。長は惟房の如く歌りもよく。つと
面目の如くふおほえり。さきも。饗應（ま）せしつ。女兒花子が舞の曲へ巫山の
雲も招くべし。雑踏せしもの。調ふ軒の春兩音をね正ふ。野の花却て艶
く。濁江の月風情あり。天離（る）鄙（も）又かゝる美女へありたりと云ふ。惟房は顧
耳と側く。目を斜（か）し。花子も又都人の風流（さ）ふらふらと云ふ。たれ
けれも。べし。さき。席と換（え）夜（の）設（し）と云ふ。長は。子（こ）對（ひ）く。羽生（の）小屋
のいせは旅寝（の）殿（の）もさき。寂莫（か）と云ふ。枕方（は）まらりて慰（な）め進（ま）せ
と云ふ。心（こ）わら（い）鳥（た）。花子（は）は取（と）ひ（く）立（た）わると云ふ。女の童（こ）小案（こ）内（の）と云ふ。



しりき。臥房（の）小（こ）驚（お）。少将（の）風（は）不（な）靡（な）く青柳（の）つとふく。おほし。つと
一夜の夢と締（む）り（ひ）ね。さき。惟房（は）詰朝野上（と）と云ふ。路（の）と云ふ。目（の）
歩（の）夜（の）宿（り）。奥州宮城郡の府（の）小（こ）著（る）。邊庭（を）治（め）と云ふ。二年（の）及（び）元久
二年の春任限（既）不（充）ふ（り）。洛（へ）入り（し）と云ふ。路（の）叙（し）と云ふ。此度（も）又
野上（の）歌（う）。長（が）あ（ら）め（る）。さき。長（は）女見（の）ふ出迎（へ）。官待（じ）
小（こ）弥増（れ）と云ふ。花子（は）は折（り）も。長（が）抱（か）れ（る）。嬰兒（の）年（の）と云ふ。つと
異（な）。情由（と）同（じ）と云ふ。折（り）も。長（が）抱（か）れ（る）。嬰兒（の）年（の）と云ふ。つと
か。膝（を）か（き）と云ふ。惟房（の）わ（ら）り（し）と云ふ。あ（ら）り（し）と云ふ。つと。子（を）
と宣（は）と云ふ。長（は）含（み）咲（き）と云ふ。これ（は）花子（が）産（む）け（る）。殿（の）内（の）予（が）か（り）と云ふ。
さき。即（ち）君（み）と云ふ。さき。二年（の）が。つと。風（も）當（た）と云ふ。塵（を）
と云ふ。養育（け）り（し）と云ふ。惟房（は）眉根（と）と云ふ。これ（は）往（ら）と云ふ。宿（じ）と云ふ。

本朝新書卷之二

二二



海柳新譜



松本素書

吉田野村 吳明の
 國司とあり三年七
 任おつてなま
 野上あり
 長の家小
 歌

花子と一夜の契あるは、その極までゆくを送りあはるる迎へ艶曲とりて人と慰む
 と。才の勢とともありの産る子に、はらわくともかほつは。又かたは
 のふ。縦千里と隔ればこそ。雁の翅小書と寄せども。ちか小す口へううと。
 子の政もあひひ。今歩もよる程も。とと告げさるる。つらつら。
 得極と宣へば。長うさの。このゆきまわらせざりし。花子が才の賤な羞
 くも。常言小樹は接ば花より。月竊むべし。人の嵐に盗ぐ。ととひま。この
 稚子の面影の殿小肖のひさるや否。ふらう照して見のへう。この時
 まも。花子の一言とま。とらふ。只物あり。しき。氣色あり。ぶつとま。一面の
 鏡と携あり。少将のわらう。ふさ。か。惟房とらう。打へ。左見右見
 てうら。驚た。奇あり。うら。この鏡。とら。とと。露違ひ。彼処の櫛。ありて
 と仰。それ。長う。と得。旅櫛。ありて。ある。と。うら。用を。と。うら。ひ

鏡も模様花子が鏡かゆ。脊か松と梅とを鑄あり。作者の名字長
 短中。それ。これ。と。又。ま。む。花子母子。と。惟房。ひ。ゆ。ゆ。
 おぼ。この鏡。往時文治元年二月廿五日。壇浦あり。討死せ。前左馬
 頭平行盛の所藏あり。と。故あり。亡父惟通。より相傳せ。これを彼。元一
 對かり。つら。その一面と。花子が。ま。入。つら。せん。縁故。この
 り。ま。と。宣。ふ。花子の。涙。と。と。と。應。と。と。長。も。涙。ら
 して。且。して。つら。この鏡。か。異。ある。わ。と。り。今。の。医。は。ん
 この花子の長が女児あり。と。左典。行盛朝臣の遺腹子。か。初花。と。は
 女房の産り。る。る。と。花子と名づけ。は。今。廿餘年。の。む。行盛
 浴と落のひ。と。初花。と。俱。せ。と。嵯峨野。か。と。溜。せ。ひ。つ。り。
 懐胎。と。お。い。せ。と。の。月。か。臨。と。の。姫。と。らん。産。の。よ。長。ら

行盛恩顧の老黨山田太郎政綱とつひの女見あはく春雨と咲れはけり
 母ハ世と早うく父のこゝろとされん主小後と戰場お越たは初花
 小傳まのせく。嵯峨の隠家お作りしお。あつとれとく味氣あは世のこすまは
 こを悲しけれ正しく入道相國の曾孫めくす。御産の待暮目鳴は
 かんど。彼式この壽とく。栄付めたるよとふ。盛衰二炊の粟とまこと。既轉と
 せりありあ。藁屋お雨露と凌る。姫の産声揚るよと人おせとととく
 心くく。どうくま。四年のま。五年の春おふひま。平家の一族お落屋
 の鳴の内裏とも攻火とく。行盛朝臣いさ。父政綱も討とねと後
 笑と悲しん。比んか。もめ。又おさ。ちひお沈むるた。あ。あ。
 是も彼朝臣の愛のひ。小様とせ。女房お。男子お。来のひ。この嵯峨
 小後への送小憂と訪ひ訪とりのひ。小。その前つ年お小様。お。た。人の數お入り

く。後お稚子の。お。初花の。只。ひ。り。く。後。哀傷
 され。ま。う。り。けん。あれ。曉。あ。の。び。ゆ。大澤の池お投りひぬ。その時
 身の胸。う。さ。今。結。あ。ま。は。勝。ま。り。元。來。平。家。の。黨。と。ま。ま。本。と
 伐草と芥とひても。搜。お。れ。命。と。と。と。人。ま。ひ。罵。お。ひ。の。は。は。し
 く。初花の亡骸と索ゆ。送葬とるも。ま。へ。と。俄頃お。姫。と。う。抱。く
 隠家と走り出小様の産のひ。稚子の。と。と。溜。お。あ。は。の。老。女。と。相。結。あ。は
 く。この美法國お聊所縁の。と。辛。ま。と。逃。と。ま。れ。と。主。従。露。の。命。お。ま。ま。
 便。ま。ま。の。お。の。主。人。光。二。部。と。り。の。と。妻。と。あ。り。お。お。の。子。と。り。と。傳。り。
 養育。ま。の。と。と。小。成長。の。お。隨。お。姿。いと。婢。お。て。心。ま。ま。又。風。流。の。お。夫。光。二。部
 も。あ。く。慈。心。の。糸。竹。の。彌。立。舞。の。と。と。の。師。お。就。く。習。せ。け。り。ま。ま。と。ま。ま。
 光。二。部。の。四。年。前。より。中。風。と。や。ん。ひ。病。お。く。起。居。と。自。在。の。と。と。家。は

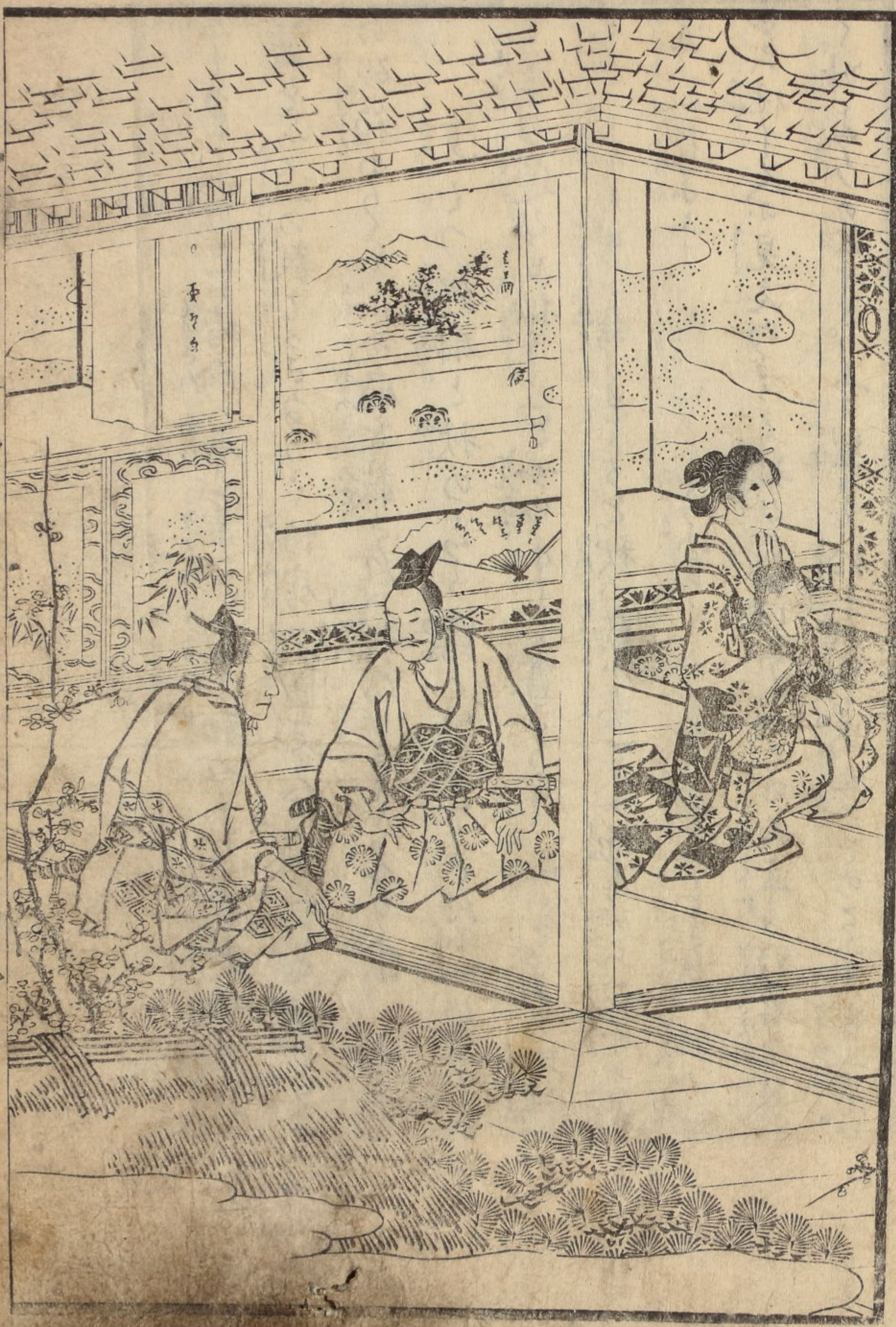
幸ひ。まはまきと在りて盛との誠心と感激の後の形見こそ。家次
 の短刀との鏡とを贈りて小桜初花の産子どののりとのまきとて
 らんと兼引く一方と切脱んとする。敵の兵船渡り留り。頼も脱
 し。不圖内侍所と成りて。これと携り義経の船にせり。この功と
 のふらとの命に。忽地朝廷の命免と稟りて。おれらと成りて。こ
 常ふひおのりて。これ又と成りて。そのまきと成りて。惟通
 ふう。嵯峨野の身ゆりて。小梅の春に。村稚と。おれらと成りて。育
 月林寺へ登りて。お家と成りて。又初花の産り。女子の姓を。おれ
 られざりて。惟通へ。建久七年の秋世と成り。おれらと成り。院
 ち。昇進し。審小競せ。おれらと成り。亡父命終り。人とのまき
 と成りて。死後。おれらと成り。おれらと成り。環會へ養りて。おれ

妻のりて。おれらと成り。おれらと成り。死に。おれらと成り。恨
 ち。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれ
 一條の。黄泉の障り。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれ
 娶りて。陸奥の。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれ
 ち。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれ
 ち。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれ
 ち。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれ
 ち。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれ
 ち。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれ
 ち。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれらと成り。おれ

花子りりも扶引ぐ。まほらわらふ歩されぬ惟房これと膝ふた載せ。今まもくまぬ
 る子あめり。梅と瓜鑄出さる。二面の鏡の價も花子いれと待しる。名づり
 けし。実植の根と得られ。待を松不更。松稚とこそ呼ばれ。既なる松のうらふ
 梅もやぐとど生かへき。飲びこれなまもくまぬ。まづ縁由と老黨のうらふせむ
 こそ。栗津松井以下の家縁を召集會。松稚花子春雨のうらふ。あがりゆく。待り
 り。衆皆大に飲ひ。或は雪の根不操節と稱し。或は十八公の榮とぞ祝はる。その
 時惟房春雨不對と。汝が年外の苦心忠あり義あり。実女の大女あり。匠り初
 花不傳さる。又く花子と養育され。春雨の老女と呼んもみ稱へり。今花子
 るり。不浴へ將くとよぶ。夫光二郎とやん。いふまもつと。同り。春雨の
 のり。教やめぬ。ぬるの身ま。く。叮嚀不すえ。いふは惠のうら。此は夫光二郎
 へ去年の夏。身ま。うら。けり。ま。く。親族あり。子太郎と身といふ。今茲

十七歳ふらりぬ。彼幼少より武藝と好む。賤の身業ふか。とて常ふ
 家もの。の。ねと。ふ。殿のへ。せ。の。よ。と。り。く。ま。び。ま。せ。く。け。り。の。り。と
 内。同。の。り。の。せ。の。け。し。と。や。と。お。ど。惟。房。と。れ。召。せ。と。仰。と。る。か。太。郎。之。郎。馳
 く。母。の。後。方。か。ま。り。つ。と。の。形。容。鄙。か。い。似。げ。な。れ。仕。役。の。物。の。用。か。も。立。て。ぐ
 ん。ゆ。と。い。へ。惟。房。ま。ほ。ら。く。カ。と。と。と。汝。彼。処。の。縁。故。へ。く。ま。つ。ん。母。が。誠。忠
 と。稟。つ。と。と。ま。が。家。か。仕。さ。る。松。稚。が。股。肱。と。も。い。ふ。ま。も。く。ま。ぬ。汝。が。祖。父。へ。平。家。の
 侍。か。く。山。田。太。郎。政。綱。と。う。す。わ。せ。い。父。光。二。郎。が。字。と。象。と。山。田。二。郎。光。政
 と。名。告。せ。と。と。ま。づ。見。系。の。引。出。物。か。太。刀。烏。帽。子。あ。ら。ぬ。公。賜。と。い。ふ。春。雨
 つ。の。し。と。と。花。子。も。う。ら。く。給。び。や。え。と。ま。る。ぬ。内。惠。の。う。ら。方。あ。る。の。く。ま。も。く。ま
 及。一。の。ふ。つ。れ。も。叡。山。月。林。寺。か。登。一。の。ひ。つ。行。稚。と。や。ん。母。も。も。異。れ。と
 不。見。上。あ。く。在。と。ま。れ。べ。い。と。か。ら。け。り。お。ぼ。え。け。り。い。ふ。不。言。さ。く。や。か。り。と。と。同。い。か

少将惟房二面の鏡の
いすの
女児身もさそり
松稚ゆふとほ浴へ
拵くすぢりもみ
春雨が二子山田
三郎見参しく
家良とまれ



惟房これか點ちりびく。彼行あつち推おしがらふ小干こまてん種くさくの物ものがらりめれど。一朝いつしやうの説せつ盡つがじ。
その後のち小妾こめかけしうちうとべと應おこめゆ折おしも遠寺とんじの鐘聲かね音ねづれて。初更はつせい
少すこしあり小こけしと春雨はるさめへ席せきと更あらたく。盃さかづきと勸すすめまかせ夫婦あうふ君臣くんしんも飲のびと
盡つく小こ盃さかづきの教しやうもさうありと。惟房これか不圖ふとえらりめへ蒸襖むすまのこま小料紙せうし
の硯箱すずりばこめりく。上小扇うへあみぎと載のれば押おひくさくさくめふ。
夏なつもつれ扇あみぎと秋あきのまら露つゆといづらさたふおれありの床とこ

と筆ふでの運てびも拙つたくど。女をんなのもして書かきりく。歌うたのころの斑婕妤はんせつじが故更こせいと
どひくせく男おとこ小捨こすてしとるを。秋あき小こ高たか小こあせく柳やなぎり。花はな子こが筆ふで小こやめんと
宣のたまふ。花はな子こふく取とりひく。宣のたまふでく。筆ふでのこまび小こけり。縁由えんゆとす
ど他ほか一人ひとり小見こみえゆると。疑うたがひおぼさんぐ。この三年さんねんが君きみと慕こひまらせ
く。帰かへりめふ日ひと。あ盟あまくむむむ。馬士うまのさのこま言こと告つて。只ただこれのこ

問とせたりつるふ。此度このたびへ養濃路やうのうぢと過よりめんと。空まくさくさく。浴ゆへもぐと
暮あひよるべと。年としがもほし。どひ風かぜく。死しんり。さてもおもかりさんと。浅あき
あ。女をんな子の知しりく。辞世じせいの歌うたと遺のこりま。幼人こどもの袖そで小こ携たり。愁あはれ小こ絆はいとまれ
ば。月つき聲こゑ蟬せみの裳もへ脱ぬ得え。一日いちにち二日ふたにちと泣なくせ。ふ。さ。め。つ。つ。空そら言ことふ。
忽地たちまち走衆しゆうしゆの告つ来き。又またく小宿せきせのめといひ罵ののふ。いと浅あき
娼うへく。扇あみぎえらりく。さ。ま。ま。ま。世よも面おもたれと。事ことの本末ほんまつと物
が。れ。ば。ま。駭おど然ぜんと。う。ち。驚おどたり。殿とのの掃落せうらく十日じふにちと。後あま。ん。の。再會さいかいへのつら
さ。由ゆり。た。ら。ふ。こ。ま。の。ひ。の。り。ま。惟房これかゆ。宣のたまふ。士しの己おのれと知しり。ま。ふ。
死し。女をんなの己おのれと。う。ち。ま。の。め。為なる。小容こようと。い。へ。一ひと夜よの情なさけ。百ひゃく年ねんの命いのち。か。う。え。ん。と
か。り。へ。ま。の。も。尋常よつじやうの公こう。あ。ん。や。う。こ。の。志こころ移うつら。む。借老せきらうの誓ちか言ご。ら。ま。
違ちがひ。ん。花はな子この。い。ま。國くにの斑婕妤はんせつじの。ま。は。幸さいわ。の。め。さ。ら。う。ま。これ。と。も。斑はん女にょと

嘆く憂とあらね夫婦がなふ誓言ももどく。氣色一りく見えぬ
 みどる時より花子と稱し。人々斑女前と申す。斑女少将惟房も
 粟津六郎の奴隷十餘人と強し。春雨山田三郎あつぬ。斑女松稚乃
 供し。流しより上るべしと仰せ。次の日野上をよら。殊さう小路のそ
 かり日あり。洛の帰著。言の次の斑女松稚のゆきもすえぬ。あま
 後ま彼人くも恙なく上洛せり。因て黄道吉日をえ。斑女と新婚姻
 の蒔と開き。いりく睡し。見えぬ。福ふ。その年の終ふ亦男子出せし
 のひぬ。それごと鏡の梅も得られ。これと梅稚丸と名づけ。鍾愛の
 是法うごりくるとあん。

墨田川梅柳新書卷之一畢



157

京

山